

平成30年1月25日

発言者	発言要旨
【請願27号の審査】	
島津副委員長	<p>国の来年度予算案を見ると、様々な施策が打ち出されており、各施策をしっかりと見極めて事業に取り組む必要があることから、継続審査でお願いしたい。</p>
【所管事項に関する質問】	
松田委員	<p>国の来年度予算の林業成長産業化総合対策にある「新たな森林管理システム」の概要はどうか。</p>
森林ノミクス推進監	<p>戦後造成された森林の半分が主伐期を迎えているが、多くの森林所有者は森林経営の意欲が低い一方で、林業経営者は規模拡大の意欲がある。こうしたミスマッチを改善するための新たな仕組みであり、今国会で「森林経営管理法（仮称）」として法制化を目指している。具体的には、森林所有者の責務を明確にすること、森林所有者自ら経営管理できない場合、市町村が経営管理に必要な権利を取得し、意欲と能力のある林業経営者に委ねること、林業経営に適さない森林等は、市町村が自ら管理を行うことであり、これに国が新たに創設を検討している森林環境税を充当していくこととしている。</p>
松田委員	<p>森林環境税の仕組みや用途はどうか。</p>
森林ノミクス推進監	<p>森林環境税の課税額は、1人あたり年間1,000円が予定されており、復興特別住民税が平成35年度で終了することから、36年度から課税され、各自治体に配分される見通しとなっている。しかしながら、森林整備は喫緊の課題であるため、各自治体に対する森林環境税の配分は、5年間前倒しの31年度から森林環境譲与税として配分される予定となっている。また、森林環境税の用途として、市町村は、間伐、人材育成、担い手の確保、木材の利用促進及び普及啓発等、県は、市町村による森林整備等に対する支援となっている。林野庁では、今年3月にガイドラインを示す予定としている。</p>
松田委員	<p>森林環境税とやまがた緑環境税の関係はどうか。</p>
森林ノミクス推進監	<p>森林環境税の詳細が不明確であるため、やまがた緑環境税を所管する環境エネルギー部と情報交換を密にしながら、しっかり検討していきたい。</p>
松田委員	<p>新規就農者数が、本年度調査では309人となったが、新規就農者に対する支援状況及び今後の見通しはどうか。</p>
農業経営・担い手支援課長	<p>関係機関との連携のもと、発展段階に応じた各種支援を実施しており、具体的には、やまがた農業支援センターで相談を一元的に受け付ける体制を整えている。また、各総合支庁農業技術普及課が経営及び技術の個別指導を実施しているほか、経営開始後5年間交付される国の農業次世代人材投資資金に加えて、本県独自に実施している45歳以上の新規就農者に対する支援など、動機付けから就農準備、就農定着段階までの各段階に応じたきめ細かな支援を行っている。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
	<p>第3次農林水産業元気再生戦略において、新規就農者数の目標を平成29年度から32年度までの4年間で1,400人と掲げており、今後は、市町村や関係機関と連携しながら確保に努めていきたい。</p>
松田委員	<p>農業次世代人材投資資金による支援がなくなる5年後の支援についてどのように考えるか。</p>
農業経営・担い手支援課長	<p>就農後5年程度経過した農業者については、県農林大学校において財務管理等をテーマとした経営力向上のための講座や各総合支庁において経営力向上研修会を実施している。また、各総合支庁農業技術普及課が中心となり、農業者の抱える経営や技術それぞれの課題に応じて個別指導を行いながら支援しており、関係機関が連携し、新規就農時の5年間も含め、農業者の課題に応じて支援していきたい。</p>
松田委員	<p>新規就農者の経営の実情は、安心して生活できる収入がないのが現状と考えるがどうか。</p>
農業経営・担い手支援課長	<p>収入に関するデータは持ち合わせていないが、市町村の就農研修生受入協議会に状況を聞きながら、収入の観点も含めて新規就農者の支援に取り組んでいきたい。</p>
佐藤(昇)委員	<p>荒廃した森林の整備及びその担い手となる人材育成に対する県の考えはどうか。</p>
森林ノミクス推進監	<p>最上及び庄内地域は民有林の人工林率が高く、森林への関心も高いが、村山及び置賜地域は人工林率が低く、森林への関心も比較的低いと考えている。県としては、路網の整備や高性能林業機械の導入を促進し、県産木材の需要を拡大するなどの森林ノミクスの取組みを進め、山の価値を見出し、山を持っていて良かったと言える施策を実施していきたい。</p> <p>人材育成については、この春初めて輩出する農林大学校林業経営学科の卒業生が、春から森林組合等に就職することになっており、中核となって活躍してくれるものと期待している。また、林業への就業を促進するため、3年間の研修に対して支援する緑の雇用制度を活用して人材育成を進めている。制度が始まった平成15年度から28年度まで、243名の雇用に結びついている。</p>
佐藤(昇)委員	<p>イノシシによる農作物被害が多くなっているが、県の対策の状況はどうか。</p>
園芸農業推進課長	<p>昨年度に山形県イノシシ管理計画を策定し、生息数を平成27年度の1,900頭から32年度に1,400頭まで減少させることを目標としている。農作物被害対策として、4月から10月までの夏季捕獲を推進するため、国と合わせて16,000円の助成を実施しているほか、ICTを活用した捕獲の見回り負担を軽減するための実証などを支援している。</p> <p>また、環境エネルギー一部では、環境省の指定管理鳥獣捕獲等事業を活用し、11月から2月までの冬季に東根市及び高畠町でイノシシの捕獲を実施している。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
佐藤(昇)委員	庄内のクロマツと蔵王のアオモリトドマツの害虫被害に対する県の防除対策の状況はどうか。
森林保全主幹	<p>庄内地域の民有林に対する松くい虫被害量は、昨年度は約 23,000 m³で過去最大であったが、マツノマダラカミキリが羽化し飛び立つ前の駆除を徹底したことにより、今年度は約 16,000 m³で、対前年比約 7 割に減少している。</p> <p>蔵王のアオモリトドマツの被害は、平成 25 年に蛾の幼虫であるトウヒツヅリヒメハマキが葉を食害する被害が確認されており、その後、樹勢が弱体化したところに、トドマツノキクイムシによる穿孔があり、枯死に至っている。一帯が東北森林管理局所管の国有林であることから、局が主体となって関係機関と調整を図りながら対策を検討している。</p>
吉村委員	野菜の価格高騰が続いているが、現状と高騰の要因は何か。
園芸農業推進課長	<p>農林水産省が公表した全国のスーパーの食品価格動向調査によると、キャベツが前年同期比 219%、レタスが同 184%、白菜が同 231%、大根が同 222%と価格が 2 倍程度上昇している。</p> <p>一方、東京都中央卸売市場の野菜の入荷量は前年同期比 6 割から 7 割に減少している。これは、主産地である関東や愛知県において昨年 10 月に播種及び定植した野菜が台風 21 号の被害を受け、秋から冬にかけての低温で生育が遅れたことが要因である。</p>
吉村委員	今後の見通しはどうか。
園芸農業推進課長	<p>農林水産省が公表した 1 月下旬の野菜価格の見通しは、キャベツ及びレタスは高止まりする見込みとなっている。また、白菜は、主産地が 11 月以降天候に恵まれたため下落する見通しである。</p> <p>2 月に入ると、11 月に播種及び定植された野菜が出荷されるため、全体的に価格は下落すると見込まれている。</p>
吉村委員	今年度、県では 2 頭の種雄牛が誕生したが、概要はどうか。
畜産ブランド推進主幹	県では肉用牛改良事業により種雄牛づくりを行い、その精液を生産者に供給している。昨年 7 月、霜降りの度合いを示す脂肪交雑の数値が歴代最高の「幸花久」、12 月に高級な部位として使われるローズの大きさが歴代最高の「神安平」が誕生した。いずれも肉質が優れているとされる但馬系の種雄牛で、発育の良い雌牛に交配することにより、肉質と発育の両面に優れた子牛生産が期待されている。
吉村委員	県内生産者に対する種雄牛の凍結精液の供給状況はどうか。
畜産ブランド推進主幹	種雄牛は畜産試験場で飼養しており、週に 2 回凍結精液を製造し、県家畜改良協会を通して生産者へ供給している。今年度 2 月末までの供給本数は、「幸花久」が約 8,800 本、「神安平」が約 1,600 本となっており、県内生産者の関心が高いものと認識している。
吉村委員	畜産試験場で飼養している他の種雄牛の活用状況はどうか。

発 言 者	発 言 要 旨
畜産ブランド推進主幹	<p>昨年誕生した2頭を含め、現在6頭を飼養している。平成19年度にデビューした「平忠勝」、26年度にデビューした「満開1」は特に評価が高く、「平忠勝」は累計約10万本の精液を供給している。発育、肉質向上により畜産農家の経営安定に貢献している。</p>
吉村委員	<p>県産和牛のブランド力向上のための種雄牛づくりに係る県の展望はどうか。</p>
畜産ブランド推進主幹	<p>平成19年度から展開しているやまがたの和牛増頭運動において、繁殖雌牛の増頭と県産種雄牛づくりによる優良な山形生まれ、山形育ちの和牛子牛の増産に取り組んでいる。</p> <p>畜産試験場では、これまで約2万頭の牛肉サンプルを分析し、脂肪の質など牛肉のおいしさとの関連性について研究したところ、種雄牛の違いにより脂肪の質が異なることが明らかになった。今後もこれらの知見をもとに、さらにおいしい牛肉生産が可能な能力の高い種雄牛づくりに取り組んでいきたい。</p>
吉村委員	<p>関係者の期待も高いので、県産種雄牛づくりにしっかり取り組んでほしい。</p>
吉村委員	<p>中学生のための農業ガイドブックを作成したねらい、配布後の反応、今後のPR活動についてはどうか。</p>
技術戦略調整主幹	<p>若手農業者が生き活きと活躍する姿や農業の魅力を伝える啓発パンフレットを作成し、県内の中学2年生に配布した。本県の基盤産業である農業を維持発展させていくためには人づくりが重要と考えており、できるだけ若いうちに農業に興味を持ち魅力を感じてもらうため、キャリア教育を実施している中学2年生に配布し、将来の職業選択肢のひとつにしてほしいと考えている。配布後、中学校からは「分かりやすくまとめられており中学3年生にも配布したい」との声が寄せられたほか、東北農政局や他県からも「非常に良い冊子だ」と評価が高かった。農業の魅力がたくさん詰まった冊子となっており、今後、様々な場面で活用していきたい。</p>
吉村委員	<p>中学校や関係機関だけでなく、実際に冊子を配布された中学生からの反応も踏まえて、今後の施策展開に活かしてほしい。</p>
伊藤委員	<p>菌床きのこ栽培に要するオガ粉の入手が困難になってきたと聞くと、県内の生産状況はどうか。</p>
木材産業振興主幹	<p>県内の菌床きのこ栽培に要するオガ粉の購入先は8割がJAで2割が木材関係業者となっている。生産地は3割程度が県産で7割が秋田県等の県外産である。</p>
伊藤委員	<p>県産オガ粉の供給拡大に向けた考えはどうか。</p>
木材産業振興主幹	<p>オガ粉に適した広葉樹は、県内ではほとんどを製紙用チップとして生産されている現状にある。また、近年、広葉樹を伐採する事業者が減少していることから、オガ粉の価格も10%程度高騰していることから、きのこの生産地である最上地域へ安定供給する仕組みが重要と考えている。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
伊藤委員	国有林からの広葉樹の供給はできないか。
木材産業振興主幹	国有林では人工林中心の伐採を行っているため、広葉樹の生産量が少ないと思われるが、関係団体とも連携し民有林及び国有林で情報の共有を図りたい。
伊藤委員	オガ粉購入に対する支援状況はどうか。
木材産業振興主幹	「やまがた山菜・きのこブランド化戦略」の一つの柱である生産戦略の中で、県単独の支援事業による施設の整備とあわせた生産資材の支援や、東日本大震災関連対策の国庫補助事業等を活用しながら個別の事情にあわせて対応していきたい。
伊藤委員	農業委員会法が改正され、新たな農業委員会制度が発足し、農地利用最適化推進委員が設けられたが、全ての市町村において新体制に移行したのか。
農業経営・担い手支援課長	平成28年4月の改正農業委員会法の施行により、農業委員会の業務が農地等の利用の最適化の推進に重点化され、農地利用最適化推進委員が新設された。その役割は、担い手への農地の集積及び集約化、遊休農地の発生防止と解消、新規参入の促進であり、今年1月に全ての市町村が新制度に移行する予定である。
伊藤委員	農地中間管理事業の実績はどうか。
中山間振興・農地集積保全主幹	平成26年度から3か年の集積は、9,712haで全国3位となっている。
伊藤委員	貸し出された農地の構成はどうか。また、農地の貸し出しはどのような時期が多いのか。
中山間振興・農地集積保全主幹	県全体の耕地面積約11万9,000haのうち水田は9割の9万4,000haとなり、農地中間管理機構を介した貸し出しはその約1割の9,712haとなっている。また、貸し出しの時期は、庄内地域など基盤整備が終了したところでは、担い手による法人の立ち上げとともに貸し出しが進んだ。また、農地の基盤整備を介した貸し出しも進んでおり、今後伸びていくと見込まれる。
伊藤議員	平地と中山間地域など、地域ごとの傾向はあるのか。
中山間振興・農地集積保全主幹	9,712haのうち平地が8割の8,141ha、中山間地が2割の1,571haとなり、県全体の平地にある耕地面積の16%、中山間地にある耕地面積の2.2%となっている。中山間地の集積については、これまで地域の話し合いを進めているが、「区画が小さい」、「大型機械が入れない」など、担い手からは引き受けが難しいという話がでている。
伊藤委員	集積を進めていくうえで、農業委員会の農地利用最適化推進委員と機構の連携状況はどうか。

発 言 者	発 言 要 旨
中山間振興・農地集積保全主幹	機構事業は市町村に業務委託されており、これまでも市町村を中心にJAや農業委員会とともに農地の貸し手と受け手の調整を行っている。農地利用最適化推進委員の新設に伴い、今年度に県農業会議がブロックごとに勉強会を開催しており、来年度から各地域において更に連携を深めながら集積を進めていきたい。
伊藤議員	今般の大雪や強風による被害の状況はどうか。
農政企画課長	現時点で大雪による大きな被害の報告はない。昨年の12月25日や今年の1月9日の強風などにより、パイプハウスの全半壊が11棟、ビニール破損等が123棟など、合計約3,400万円の被害となっている。引き続き被害の把握に努めていきたい。
野川委員	ハウス栽培やハウス周りの除雪で燃料代がかさみ、生産者は苦慮している。燃料高騰に対し手助けとなる対策はないか。
園芸農業推進課長	ハウスの燃油高騰時のセーフティネットとして、燃油価格高騰緊急対策が措置されており、この対策が発動されるA重油の基準価格は97.2円/Lである。現在の価格が73円/Lであることから、対策は発動されていない。農家も国も資金を拠出する必要があるが、セーフティネットとして、この対策の活用を進めていきたい。
野川委員	日EU・EPAの交渉が妥結したが本県への影響はどうか。
農政企画課長	<p>畜産関係では、デンマーク及びスペインから豚肉が輸入されており、10年程度で関税が引き下げられる。輸入の多くは一般豚であり、本県で生産割合が大きい銘柄豚との直接の競合はあまり想定されないが、輸入と競合する一般豚の価格低下による本県銘柄豚の価格低下が懸念される。</p> <p>林業関係では、集成材とその材料となる製材の主な輸入先はEUであり、8年後に関税が撤廃される。輸入集成材の価格が低下した場合、国産集成材の価格も低下し、その原料となる県産丸太の買取価格の低下が懸念される。</p>
野川委員	TPP11の国内対策である国の畜産クラスター事業は、補正予算ということもあり、3月から4月に募集して8月頃の採択となっている。この事業の活用を予定していた天童市の牛舎建設については、住民の反対で中止になったが、補正予算ゆえに予算化から事業募集期間までが短く、事業を進めにくいのではないかと懸念される。国に対して当初予算による計上を求めていく必要があると考えるがどうか。
畜産振興課長	<p>今年度の国補正予算では575億円が措置され今通常国会で審議される。これまでも執行しやすい当初予算での対応を要望してきたが補正予算対応になった経緯があり、この状況を変えるのは難しいと考えている。国の補正予算が継続されることを想定し、現場で事前に準備することが必要と考えている。</p> <p>現在、国の要望調査が開始されたところであり、畜舎整備を考えている地区の計画について、住民への対応も含めて精査している。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
野川委員	天童市の事例について、この畜産クラスター協議会は今後の事業実施を希望している。今後も畜産クラスター事業への採択について県の支援をお願いしたい。
畜産振興課長	天童市の事例について、畜産クラスター協議会は現在も存続しており、新たな建設候補地を探し規模拡大を目指している。県としては、今後とも天童市と連携して支援していきたい。
野川委員	T P Pへの対策として県ではこれまで方針を定めて取り組んできたが、本県の園芸や畜産などにおける効果はどうか。
農政企画課長	先月、農林水産省から公表された平成 28 年の農業算出額は 2, 391 億円と前年より増加した。特に園芸の算出額は 1, 203 億円と過去最高となった。本県の取り組みの成果が着実に現れてきているものと考えている。今後も本県農業の競争力の強化に向けた対応を積極的に検討していきたい。
野川委員	これからが T P P の本番なので、今後もしっかりと取り組んでほしい。
島津副委員長	全国農業担い手サミット in やまがたの準備状況はどうか。
農業経営・担い手支援課長	<p>昨年 8 月には農業者団体等の関係団体及び行政から構成される準備委員会を、9 月には、総合支庁ごとに地域準備委員会を設立した。この準備委員会のもとに幹事会を設け、具体的な企画内容、プレイベントの内容などについて検討を重ねてきた。</p> <p>また、各地域準備委員会では、総合支庁農業技術普及課単位にワーキングチームを設け、地域交流会について検討を行っている。</p> <p>なお、今年 1 月 31 日には、担い手の経営能力の向上を図り本県農業の振興と発展に寄与するとともに、全国農業担い手サミットを広く周知し大会開催の機運を醸成すること目的とした、プレイベントを開催する予定としている。</p>
島津副委員長	参加人数の見通しはどうか。
農業経営・担い手支援課長	全国から約 2, 000 人が参加する見通しとなっており、その日程として、参加者全員で全体会を行った後、県内 8 か所に分かれて研修会を実施する予定としている。なお、県内からは約 700 人が参加する見通しとなっている。